

7.11 放射能対策講演会 第二弾

チェルノブイリは知っている、日本の未来。

第1部 「ドキュメント・放射能汚染」

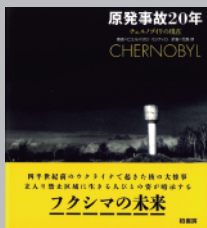
チェルノブイリ事故から20年たった現地で生きる人々のポートレート写真を
スライド上映しながら放射能汚染地帯の現実を切り取っていくステージ。(イタリア人写真家・ピエルパオロ氏撮影)

ミュージシャン兼活弁士として道化師・明川哲也(ドリアン助川)氏が
このテーマで歌い、詩の朗読で語ります。

出演：明川哲也(ドリアン助川)氏 ギタリスト：田村輝晃氏 協力：柏書房/アウルズ・エージェンシー

明川 哲也(ドリアン助川)氏 ◆作家、道化師

1962年、東京生まれ。早稲田大学第一文学部東洋哲学科卒業。放送作家などを経て、'94年、バンド「叫ぶ詩人の会」でデビュー。パーソナリティを務めた深夜ラジオ番組『ジャンベルジャン!』においてリスナーたちの重い悩みと正面から向き合い、若者たちから支持を得る。'99年、同バンド解散後に渡米。2002年に帰国後は、明川哲也の筆名で詩や小説を書くほか、朝日新聞で「悩みのレッスン」を連載中。著書に『メキシコ人はなぜハゲないし、死なないのか』(晶文社/文春文庫)、『花鯛』(文藝春秋)、『夕焼けポスト』(宝島社)、『バカボンのパパと読む「老子」』(角川SSC新書)他多数。公式サイト「道化師の唄」<http://www.tetsuya-akikawa.com/>



『原発事故20年 チェルノブイリの現在』ピエルパオロ・ミッティカ=著/写真 児島修=訳 (柏書房刊/定価3,150円)
チェルノブイリの立入禁止区域内のありのままの光景をカメラにおさめた静謐なるドキュメント。爆心地周辺のゴーストタウン、その近辺にいまも暮らす人々の日常、悪性腫瘍、白血病、奇形の身体……。放射能汚染拡散の過程を克明に解説したテキストとともに、日本版のために著者が新たに撮り下ろした福島の写真も収録し、核の恐怖にさらされた現在と未来の姿を同時に告発する。

ピエルパオロ・ミッティカ氏 ◆写真家

1971年8月6日生。ヒューマンズの視点に基づいた作品で知られるイタリア人カメラマン。イタリア、スベリンベルゴ在住で、普段は歯科医として働いている。国際的な評価も高く、多くの受賞歴がある。

第2部 「3.11 から1年4カ月を経過した今。パネルディスカッション 私たちは放射能汚染から、どう身を守るべきか？」

2011.10.25 講演会・第一弾で反響の大きかった
パネルディスカッションを拡充。今対策すべき情報をお届けします。
まず3名のパネリストに、国へあるいは横浜市へ、
今こそ届けたいメッセージを伝えてもらいます。
そのうえで参加者から事前質問の多いテーマをいくつかお尋ねし、
回答とその根拠となる情報もご提示頂きます。
ディスカッションをパワーアップするサプライズ!ゲストが
登場するかも。



武田邦彦氏
(中部大学教授)

伊藤隼也氏
(医療ジャーナリスト/写真家)

肥田舜太郎氏
(被曝医師)

コーディネーター・司会進行
あべみちこ(マザール代表)



◆日時：2012年7月11日(水)
12:30 開場 13:30 開演

◆場所：横浜関内ホール・大ホール
横浜市中区住吉町4-42-1 Tel: 045-662-1221

◆参加費：1800円(事前お振り込み) / 2000円(当日) 全席自由

*お申し込み方法は裏面をご覧ください。

主催：有限会社マザール 協力：横浜関内ホール

<プログラム>

【第1部】13:30 スライド上映を背景に
音楽演奏と詩の朗読
14:10 (15分休憩)

【第2部】14:25 各登壇者によるスピーチ
14:55 パネルディスカッション

【参加者】武田邦彦氏×伊藤隼也氏×肥田舜太郎氏

【コーディネーター・司会進行】あべみちこ(マザール代表)

15:25 質疑応答

16:00 終了